

9月中旬における水稲の病害虫の発生状況は以下のとおりです。
巡回調査(69地点)は9月4, 11~14日に実施。

○ いもち病(穂いもち)

・今回の調査では、発病穂が5地点で確認され、発生地点率は7.2%で平年(13.5%)よりやや低く、発病穂率は0.02%で平年(0.33%)よりやや低い状況でした。この他、軽度な枝梗いもちが3地点で確認されました。

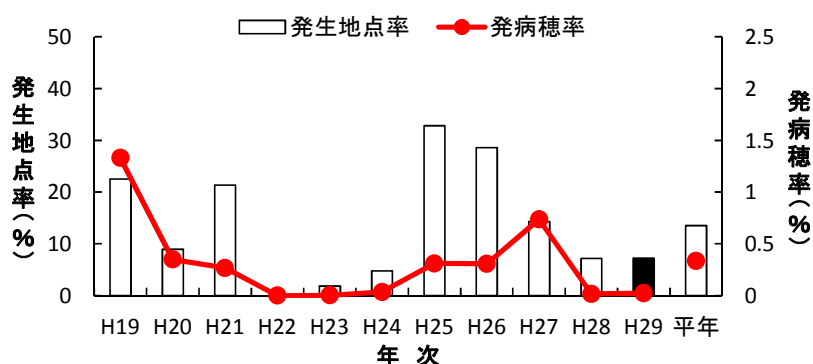


図1 9月中旬における穂いもちの発生状況

調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

発病穂:首いもち(穂首部が罹病し白穂になったもの)又は枝梗いもち(枝梗が罹病し1穂の3分の1以上の籾が枯死したもの)がある穂。なお、籾の枯死が3分の1未満の軽度な枝梗いもちには発病穂率にカウントしていない。

○ 紋枯病

・今回の調査では、発生地点率は82.6%で平年(70.6%)並、発病株率は20.5%で平年(19.0%)並の状況でした(図2)。

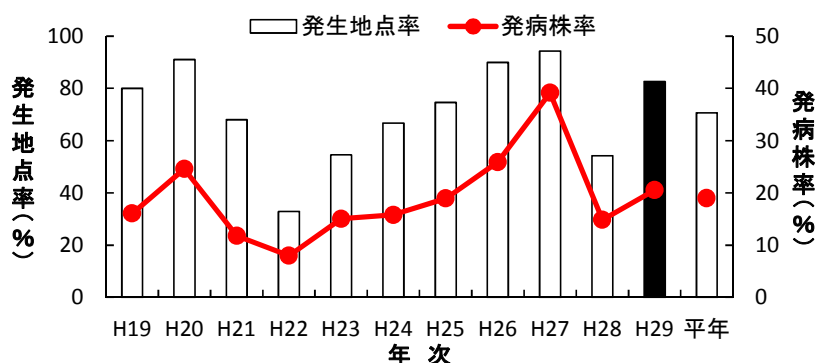


図2 9月中旬における紋枯病の発生状況

調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

・発生地点率及び発病株率は、8月に入って急増しましたが、9月中旬には平年並となりました(図3, 4)。発病度は、病斑の上位進展が緩慢でしたので、平年並に推移しました(図5)。

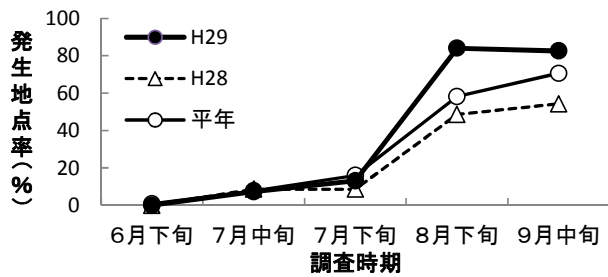


図3 紋枯病の発生地点率の推移

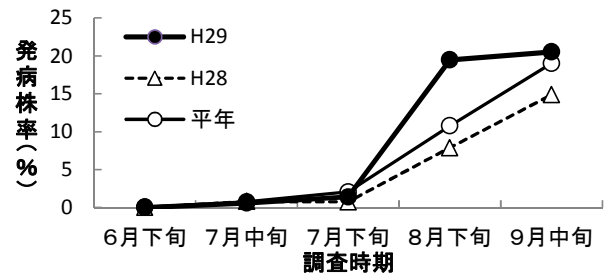


図4 紋枯病の発病株率の推移

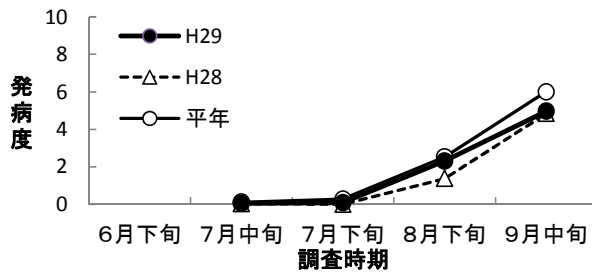


図5 紋枯病の発病度の推移

・収穫直前における発病株率が40%を越える場合は、高い確率で翌年の発病株率が当年を上回ります。今回の調査で既に、発病株率40%を超えている地点が14.5%ありました。紋枯病の発生がみられた場合は、収穫直前の発病株率を調査し、翌年の育苗箱施用剤等による予防防除を検討してください。(普及に写す技術第90号 普及技術 <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/300675.pdf>)

○ 稲こうじ病

・今回の調査では、発生地点率は20.3%で平年(22.2%)並、発病株率は2.7%で平年(3.3%)並の状況でした。

○ 疑似紋枯病

・今回の調査では、赤色菌核病、褐色菌核病及び灰色菌核病の発生が確認されました。特に褐色菌核病は、発生地点率は55.1%で平年(16.9%)より多く、発病株率は9.0%で平年(1.5%)より多い状況でした。

○ 白葉枯病, ごま葉枯病, 墨黒穂病

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。